て計らずも十六年ぶりに妙心寺に帰り
来て参禅の正角と意心不心益庵主
二人の同信あるものは拙い石仏を
造ってこれを置せんと志願し
まるで留めるべく正和元年石仏
仕立てる置き場所を探して智恵深き
二人の工作者の賛成をもらい
姫路にもこれを送いめるいろいろ